**The Quality Horizon – APQP: A Project Management Tool of IAQG**

（<https://www.buzzsprout.com/2004393/11803496-advanced-product-quality-planning-apqp-a-project-management-tool-of-the-iaqg>）

２０２２年１２月２０日配信

要約

スーザン・マトソンとジェニファー・グレイの会話では、主にAPQP（Advanced Product Quality Planning）についての詳細とその重要性が語られました。ジェニファーはAPQPの5つのフェーズを説明し、このプロセスがどのようにして製品品質の向上とリスク管理に寄与するかを詳しく述べました。また、APQPの導入によって業界全体がより積極的な問題解決へと進化していることが強調されました。さらに、APQPに関連するリソースやジェニファーのキャリア、若手へのアドバイスについても触れられました。

* **APQPとは**
	+ **略語**: Advanced Product Quality Planning
	+ **目的**: 設計や生産システムの初期段階でリスクや問題を特定し、対策を講じる
* **PPAPとは**
	+ **略語**: Production Part Approval Process
	+ **目的**: 生産工程が要件を満たし、一貫して製品を生産できることを確認する
* **APQPの5つのフェーズ**
	+ **計画**: 要件をまとめ、プロジェクトのコンセプトを定義
	+ **製品設計及び開発**: リスクを考慮して製品を設計
	+ **工程設計及び開発**: 生産システムのリスクと要件を検討
	+ **製品及び工程の妥当性確認**: 設計した製品やプロセスの適合性を確認
	+ **継続生産，使用及び引渡し後のサービス**: 教訓をプロセスに反映し、改善を続ける
* **APQPの意義**
	+ クロスファンクショナル・チームアプローチで全社的な問題解決を図る
	+ 受動的な状態から積極的な状態へと業界を導く
	+ 初期段階で問題を修正することでコスト削減やプロセスの安定化を実現
* **APQPに関するリソース**
	+ IAQGのウェブサイトのSCMHページにて資料やウェビナー、テンプレート、チェックリストを利用可能
* **ジェニファーのキャリア**
	+ IAQGに約4年前から参加
	+ 現在はAAQGのアーリーキャリアチームのリーダー
* **若手へのアドバイス**
	+ IAQGやAAQGへの参加を推奨
	+ メンターシップやキャリア開発プログラムに積極的に参加することを推奨
* **懸念事項**
	+ APQPの導入にはコストがかかるが、長期的には製品品質の向上とコスト削減につながる

このように、APQPはプロジェクト管理ツールとして、製品の品質と工程の改善に大きく寄与することが説明されました。

＝＝＝＝＝

スーザン：皆さん、こんにちは。ホストのスーザン・マトソンです。今日はジェニファー・グレイさんにお越しいただきました。ジェニファーはスピリット・エアロシステムズのサプライヤー・クオリティ・マネージャーです。また、9145 ライティングチームの IDR、9163 ライティングチームの SDR、グローバル APQP デプロイメントチームリーダー、PSDI チームの AAQG セクターリーダーでもあります。

スーザン：ようこそ、ジェニファー。

ジェニファー：ありがとうございます。おはようございます。

スーザン：おはようございます。まず、最初に、私が今お話ししたIAQGやAAQGでの役割について、感謝を申し上げたいということです。参加されたことに敬意を表します。

ジェニファー：ありがとうございます。どういたしまして。

スーザン：さて、さまざまなことについて、お話しすることができるのは明らかですが、私が本当に注目したいのはAPQPです。まず始めに、APQPとは何の略語なのか、それからAPQPとは何なのかをリスナーに教えていただけますか？

ジェニファ:もちろんです。APQPはAdvanced Product Quality Planningの略で、タイトルにあるように、設計や生産システムのプロセスの早い段階で潜在的なリスクや問題を探すプロセスです。

ジェニファー：そうすることで、潜在的な問題やリスクを完全に排除するための処置を講じることができます。完全に排除できない場合は、管理計画(コントロールプラン)を策定します。そうすることで、もしそれが現実のものとなったとしても、それを克服する方法があるのです。

スーザン：APQPはプロセスで、PPAPはそのどの部分ですか？

ジェニファー：PPAPというのは、生産部品承認プロセスの略で、生産工程が要件を満たし、できれば工程のばらつきをなくしながら、一貫して製品を生産できることを確認する客観的な証拠、あるいは記録の収集です。PPAPは11の要素から構成されています。

ジェニファー：FMEAのように、私たちになじみの深いものもあります。設計組織であれば、DFMEAを行うでしょう。PFMEAは、プロセス・リスク、プロセス・フロー、コントロール・プラン、初品検査につながります。

スーザン：そのようですね。9145規格では、APQPに関して、特に5つのフェーズが挙げられていますね。それぞれのフェーズについて、詳しく教えていただけますか。

ジェニファー：もちろんです。まず最初に、APQPは実際にはプロジェクトマネジメントのツールであることを皆さんにお伝えしておきたいと思います。タイトルに品質という言葉が入っているので、品質ツールだという誤解がありますが、実際にはプロジェクト管理ツールなのです。

ジェニファー：APQPの成功には3つの柱があります。まず、クロスファンクショナルチームのアプローチ、組織のコミットメント、そして効果的なプロジェクト計画です。APQPプロセスには5つの段階があります。最初に始めるのはフェーズ1、つまり計画です。ここですべての要件をまとめ、APQPプロジェクトのコンセプトを定義します。

ジェニファー：フェーズ2では、製品設計及び開発に焦点を当てます。ここでは、要求事項だけでなく、潜在的なリスクをすべて考慮して製品を設計します。例えば、先ほどDFMEAの話をしました。設計組織であれば、ここでDFMEAプロセスを行うことになります。フェーズ3は工程設計及び開発のフェーズです。

ジェニファー：ここで生産システムを見て、すべての潜在的なリスクと要件を含めて検討します。フェーズ4は製品及び工程の妥当性確認です。私たちが設計した製品や工程が適合し、一貫性があることの妥当性確認します。ですから、ここで初品検査(FAI)を行い、工程が適合していることを検証することになります。

ジェニファー：そしてフェーズ5は、継続生産です。ここで学んだ教訓をプロセスに戻し、ベストプラクティスを取り入れます。もし不適合があれば、それをプロセスに反映させることで、プロセスをより良いものにすることができます。

スーザン：わあ、これは本当に管理ツールですね。フェーズは、組織にとって本当に地図みたいなものでしょう？

ジェニファー：そうね。

スーザン:9145が発表されて2、3年経ちますが、あなたは今その改訂版の作業をしていますね。あなたのチームが行っている改訂作業から、どのようなことが生まれてくるのでしょうか？

ジェニファー：この改訂の成果のほとんどは、より明確化するものです。9145は業界で、ますます利用されるプロセスとなりつつあります。そのため、どうすればいいのかという疑問がたくさんあります。ですから、私たちの業界にとってより明確なものにするために、規格だけでなく、規格に付随するガイダンス資料にも、より明確なものを追加しています。

スーザン：ええ、APQPという言葉に気づきました。少なくとも IAQG やいくつかの資料の中では、APQP は今話題になっているようです。多くの人に知られるようになりました。では、人々は本当にこれを受け入れているのでしょうか？

ジェニファー：はい。私が言ったように、リスク軽減のプロセスです。私たちの業界を、受動的な状態から、より積極的な状態へと導いてくれました。だから、さっきも言ったように、潜在的なリスクや問題をプロセスの早い段階で見つけることができれば、修正するのが難しくなくなる。また、早い段階で修正する方が、修正にかかるコストも少なくて済む。かつては生産後の行われていたプロセスだった。

ジェニファー：要は、プロセスをより安定させ、不適合を少なくすることです。先ほども言ったように、APQPはプロセスの早い段階でリスクや問題を見つけようとするものです。潜在的な問題を修正するのは簡単ですし、部品が設計され生産された後よりも、プロセスの早い段階で問題を修正した方がコストがかかりません。

スーザン：ええ。それで、これは本当にクロスファンクショナルチームのアプローチで、人々が問題や問題が発生する前にそれを特定する方法のように聞こえますが、あなたはそれに同意しますか？

ジェニファー：ええ、100％そうです。そうね。クロスファンクショナルチームのアプローチです。私たちはしばしばサイロに固執しがちです。サイロといっても、エンジニアリングはエンジニアリングの世界にとどまり、品質は品質の世界にとどまり、製造は製造の世界にとどまります。製造は製造の世界に閉じこもり、全社的なコミュニケーションがうまくいっていないのです。

ジェニファー：APQPは、私たちをそのような現状から救い出してくれます。すべてのチームが集まってブレーンストーミングを行い、アクションを実行に移すことで、より良い製品とプロセスを生み出すことができるのです。

スーザン：それは素晴らしい。では、9145規格とその関わり方以外で、APQPについて知っておくと役に立つことや、APQPをもっと理解するのに役立つツールはどこにあるのでしょうか？

ジェニファー：いい質問ですね。IAQG のウェブサイトから、SCMH のページ（Supply Chain Management Handbook の略）にアクセスしてください。

ジェニファー：7.3 APQPの下には、活用できる資料がたくさんあり、私たちの業界では無料で利用できます。APQPの主要な部分についてのウェビナーもあります。さらにガイダンス資料もあります。それについては先ほどお話ししました。これらは、活動をどのように行うか、どのように展開するかについての資料です。また、APQP活動を支援するために、業界が使用できるテンプレートやチェックリストも用意しています。

スーザン:ええ、豊富な情報がありますし、それはSCMHの「計画・管理」のセクションですよね？

ジェニファー:はい。

そうです。だから絶対に見てみて。ウェビナーもたくさんあるし、人々がもっと情報を得られるような資料もたくさんあるわ。では、SCMHから提供される可能性のあるものは何でしょうか？もっと多くのツールが登場するのでしょうか？

ジェニファー：そうですね、改正を進めていく中で、私たちが得た業界からのフィードバックのいくつかを持ち帰り、そのフィードバックを通じて明らかになったことを、私たちのガイダンス資料に反映しています。9145の改正に伴い、ガイダンス資料も更新していきます。ですから、まだまだこれからです。

スーザン：いいですね。では、少し趣向を変えて、あなたについてお話ししましょう。あなたがIAQGに参加するようになったのはいつですか？

ジェニファー：IAQGに参加し始めたのは約4年前です。以前勤めていた会社を辞め、スピリットに来ました。私は前の会社で APQP の知識を持っていましたし、9145 チームはスピリットのメンバーからの参加を必要としていました。それで私はチームに加わることになりました。それ以来ずっとこのチームにいます。大好きです。AAQG と IAQG に多くの情熱を持っています。この組織には良いことがたくさんあります。

スーザン：ええ。そうですね。最初の自己紹介で言いそびれたのですが、あなたはつい最近、AAQGのアーリーキャリアチームのチームリーダーになったばかりです。それについて少し話していただけますか？また、この分野に入ろうとする人たちにどのようなアドバイスをしますか？

ジェニファー：もちろんです。専門家はIAQGやAAQGに参加してください。今、私たちの業界では、離職者や退職者によって多くの知識が失われています。ですから、新進気鋭の人たちを指導し、若手専門家のパイプラインを構築して、この活動を継続させ、業界に新風を吹き込む必要があるのです。

ジェニファー：これは、IAQG内のさまざまなセクターで見られます。そのため、IAQGや各部門では、メンターシップやキャリア開発プログラムと呼ばれるものを始めたり、活性化させたりしています。ですから、もしAAQGやIAQGに参加することに非常に興味を持っている若い専門家がいたら、Voting member(投票権を持つメンバー会社)に連絡を取り、そのことを伝えることを強くお勧めします。そうすれば、その名前を私たちに伝えてくれるでしょうし、私たちはその人たちをプロジェクトに参加させ、活動を開始させることができます。

スーザン：継続すること。繁栄を続けるのでしょう？ええ。素晴らしい。では最後に。APQPについて、そのプロセスや柱、あるいは人々がどのようにAPQPを活用しているかなど、私たちがあまり取り上げていないことで、みんなに知っておいてほしいことはありますか？

ジェニファー：私たちがよく耳にする懸念事項のひとつは、先行作業が多く、導入にはコストがかかりすぎるということです。私が言えることは、確かに仕事は増えますが、その仕事をすることで、実際に製品を確保することができるということです。より良い製品、より良いプロセス、そして実際にコスト削減につながります。不適合も減らすことができる。つまり、全体として、より堅牢なプロセスを実現できるのです。

スーザン：素晴らしい。ありがとう、ジェニファー。今日はAPQPについて、またアーリーキャリア・チームについて少しお話しできて、本当に感謝しています。以上、IAQGクオリティ・ホライズンをお聴きいただきましたスーザン・マトソンでした。次回までお元気で。